

災害に備えた防災キャンプ訓練

(株)木のくに屋

本西宏行

昨年の台風19号では、河川氾濫による甚大な水害が起きました…、江東5区でも避難勧告が出て、皆さん不安な時を過ごされた事でしょう。

2019年の月報9月号で紹介された『江東5区大規模水害ハザードマップ』では巨大台風の襲来→荒川と江戸川の同時氾濫を想定しており、2週間以上浸水は引かず、電気・ガス・水道が使えない状況が予想されています。

今回は河川氾濫を免れ江東5区は難を免れましたが、次は分かりません。ここで、河川堤防の外である新木場は東京湾に囲まれた立地なので『水害ハザードマップ』上は浸水被害なしの地域に区分されています。

月報を読んで、江東5区在住の社員達とは

【水害時の広域避難場所は新木場社屋】

と、半分冗談で話しておりました。

そこに台風19号の襲来です。

江戸川区に避難勧告が発令され、大勢の区民で混雑する避難所指定の小学校の体育館を目にした社員は、家族全員で迷わず新木場の当社社屋に避難したそうです。

シュラフや食料(お酒も…)を携え「まるでキャンプの様だった」との事。

墨田区では避難勧告は結局出ませんでしたでしたが、行政からの避難準備情報として避難場所には備蓄品は無いものと考えて、飲料や食料まで持参する旨の通達がありました。

また、指定避難場所は水害に対してはハザードマップ上、浸水3.0m以下の想定区域内に有り…?

『首都直下型大震災』発生時も、自宅が被災しなかった場合は在宅避難でライフラインの復旧や支援物資の配給を待つように、指針が出ています。

そこで、家庭内で在宅避難生活を疑似体験することが推奨されています。既存のライフラインを使わずに、家庭内で数日過ごすことで被災体験と防災備品の準備に役立つ取組みです。

具体的には、家庭用のカセットガスの備蓄があれば、カセットコンロやキャンプ用ガスランタンで数日は普通に生活できるものです。

備蓄の水・食料品も訓練で消費することで期限前の入れ替えも出来ますし、まさに一石二鳥です。

キャンプブームにより、キャンプ場の予約が取れなくなったのには閉口しますが、登山用が主流だったキャンプ用品がホームセンター等でも10分の1の価格になったのには驚きます。

それらを上手に活用して、2週間を耐え忍ぶ工夫が必要ではないでしょうか。

(知人は防災キャンプ訓練の結果、発電機まで購入!…これはやり過ぎ?)



今年になっても、異常気象による大規模水害が各地で発生しており、7月中旬には我が社にも江東区からあらためて『洪水&高潮のハザードマップ』の配布がありました。

幸いにも新木場の当社所在地は、洪水&高潮とも避難地区に指定されていたので江東5区在住の社員達には、正式に

【水害時の広域避難場所は新木場社屋】

との認識を持って頂き、災害発生時には食料とキャンプ用品を携えて避難してくるよう伝えております。

更には、江東区。

下水施設の処理能力を超えた大雨が降った場合にも、低地では1.0~2.0m程度の浸水が予想されている様で『江東区大雨浸水ハザードマップ』で事前の確認が必要だと思います。

今後も『首都直下型大震災』には十分備えなければなりません、『江東5区大規模水害』の方が確度として遥かに発生確率は高いように思われます。(亜熱帯化している気候変動下、毎年の台風が心配です)そして、大規模水害時に新木場のライフラインがどの程度確保されているか?

電気： 発電機&ソーラーパネル

ガス： カセットコンロ&ガスボンベ備蓄

水道： 受水槽タンク(真水500L)

以上が現在の社内対策です。

新木場で何名が何日避難生活を送らなければならないのか?

想定は難しいのですが、いざとなったら、木材会館までは300m。

社員一同、東京木材問屋組合の備蓄品に頼りたいと思います。(笑)



江東区洪水ハザードマップ

浸水の時間

洪水氾濫による浸水、排水の想定条件

- 荒川において、想定し得る最大規模の降雨により、水が荒川の堤防を越えた場合や、堤防が壊れた場合を想定しています。
- 洪水氾濫で市街地などに溜まった水は、排水施設（排水機場・ポンプ所など）により河川・運河へ排水することを想定しています。
- 排水施設が浸水した場合や、備蓄している燃料が無くなった場合は、排水が出来なくなることを想定しています。

浸水継続時間の凡例

- 2週間以上の区域
 - 1週間～2週間未満の区域
 - 3日～1週間未満の区域
 - 1日～3日未満の区域
 - 12時間～1日未満の区域
 - 12時間未満の区域
- ※色図解のある入居者への配達は別途としています。
※色図を拡大したものは江東区ホームページに掲載してあります。

凡例（洪水）

- 避難先
 - 主な公共施設
 - 地盤が高い避難地区は、浸水しない区域し、公園・広場がある
 - 水害時、特に危険となる箇所
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域
流速が大きく、木造家屋が倒壊する恐れがある区域
 - アンダーパス
- アンダーパスとは
周辺より低く水が溜まりやすい
ため注意が必要な箇所

避難する時の留意点

情報収集しましょう
ラジオ、テレビ、インターネットで最新の情報を注意しましょう。

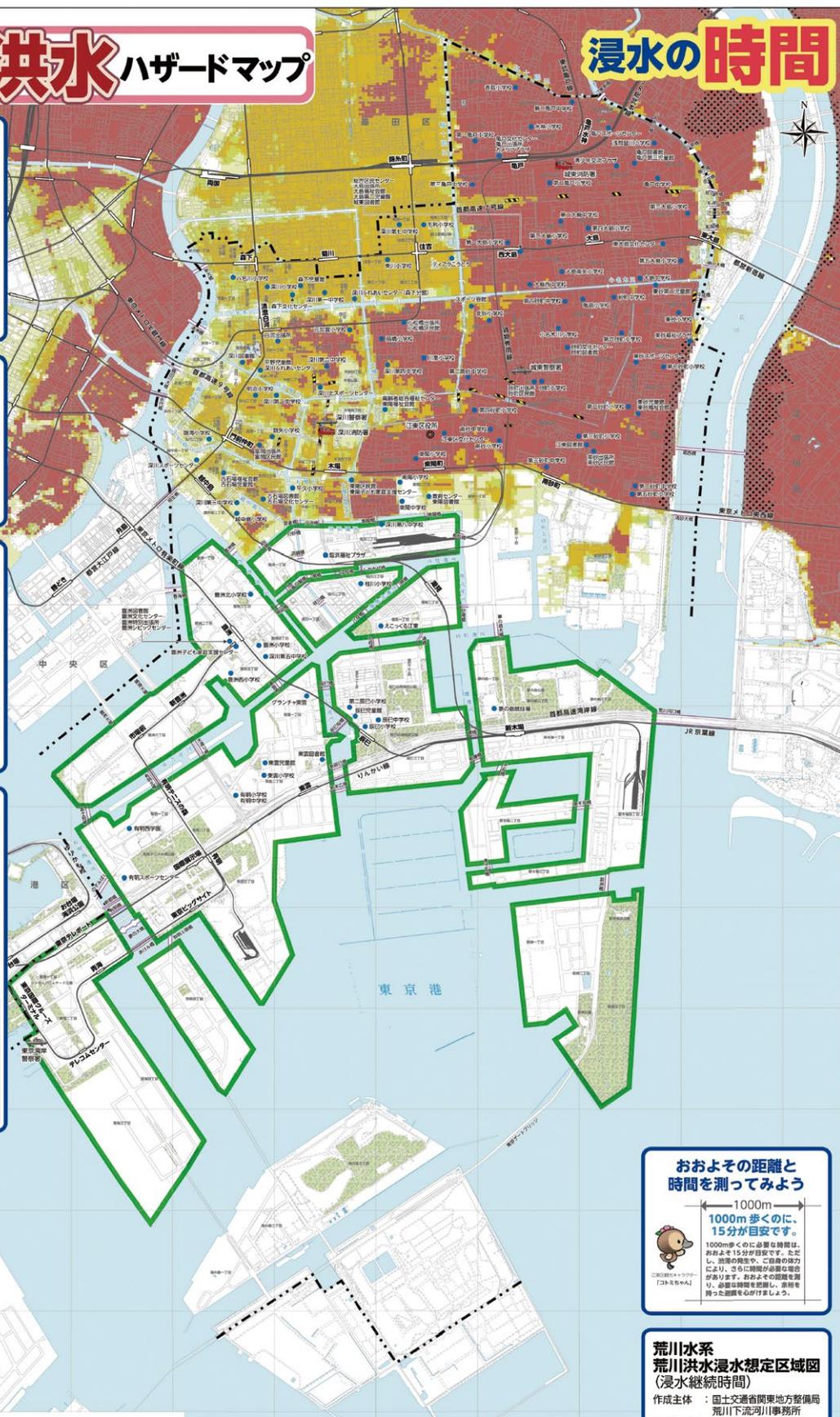
避難の呼びかけに注意を
「危険です」「避難してください」などの呼びかけに注意を払い、速に避難しましょう。

落ち着いて避難しよう
避難経路を確認したら、落ち着いて行動しましょう。

簡単な避難方法をお勧めします
階段、エレベーター、地下鉄などを利用せず、徒歩で避難しましょう。

足元に注意！
浸水しているため足下の危険が分かりにくくなっています。足下を確認しながら避難しましょう。

万が一逃げ遅れた場合には
自宅や、最寄りの公共施設にいて、避難される水より高い場所に避難しましょう。



おおよその距離と時間を測ってみよう

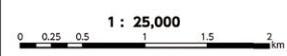
1000m

1000m 歩くのに、15分が目安です。

1000m歩くのに必要な時間は、およそ15分が目安です。ただし、歩道の状況や、ご自身の体力により、さらに時間が必要な場合があります。おおよその目安を測り、必要な時間を把握し、余裕を持った避難をお願いします。

荒川水系 荒川洪水浸水想定区域図 (浸水継続時間)

作成主体：国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所
指定年月日：平成28年5月30日



作成年月：令和2年3月 印刷物登録番号(31)67号
 編集発行：江東区土木部 河川公園課 TEL：03(3647)2538 / 総務部 危機管理室 防災課 TEL：03(3647)9584
 発行会社：株式会社建設技術研究所 東京都中央区日本橋浜町3-21-1 TEL：03(3668)0451 (代表)

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京縮尺2,500分の1地図図を利用して作成したものである。(承認番号)31都市防災交審第160号、(承認番号)31都市防災交審第216号

江東区洪水ハザードマップ
 出典：江東区土木部河川公園課



江東区 洪水 ハザードマップ

荒川の堤防が決壊したときの
災害避難地図(想定し得る最大規模)

浸水の深さ

避難に関する情報

江東区は、荒川の水位、上流の雨、今後の台風の発達について検討し、警戒レベルに応じて取るべき行動を以下のとおり発表します。

災害発生情報 既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	警戒レベル 5
避難指示(緊急) 避難勧告 速やかに避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	警戒レベル 4
避難準備・高齢者等避難開始 避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	警戒レベル 3
洪水注意報・大雨注意報等 避難に加え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	警戒レベル 2
早期注意情報 災害への心構えを高めましょう。	警戒レベル 1

※【警戒レベル5相当、警戒レベル4相当、警戒レベル3相当】など、この【相当】が付く情報は江東区が発信したものではありません。水位や警報の情報をとらえて、マスコミなどが発信しているものと、「警戒レベル【相当】」という表現があっても、むづかしく避難行動などを発表するわけではありません。雨や河川の情報を総合的に判断し、発信します。

※洪水は台風が過ぎ去った後に発生する場合があります。油断せず、避難情報をよく確認するようにしてください。

※詳細は、江東区洪水高水害ブックレットのP.11-12をご覧ください。

江東区の防災情報 川の防災情報

浸水した場合に想定される水深

浸水深と家との関係
5.0m～10.0m未満

3.0m～5.0m未満

0.5m～3.0m未満

0.5m未満

※危険箇所のある人・施設は避難先としてください。危険な状況が発生した場合は、速やかに避難してください。

判断の目安

AP.±7.0m 氾濫危険水位

AP.±6.50m 避難判断水位

AP.±4.10m 氾濫注意水位

岩淵水門(上) 水位観測所

※岩淵水門(上)は、警報の基準となる水位を観測するための水位観測所です。江東区はこの岩淵水門(上)の水位に基づき協議し避難情報の発令を行っています。

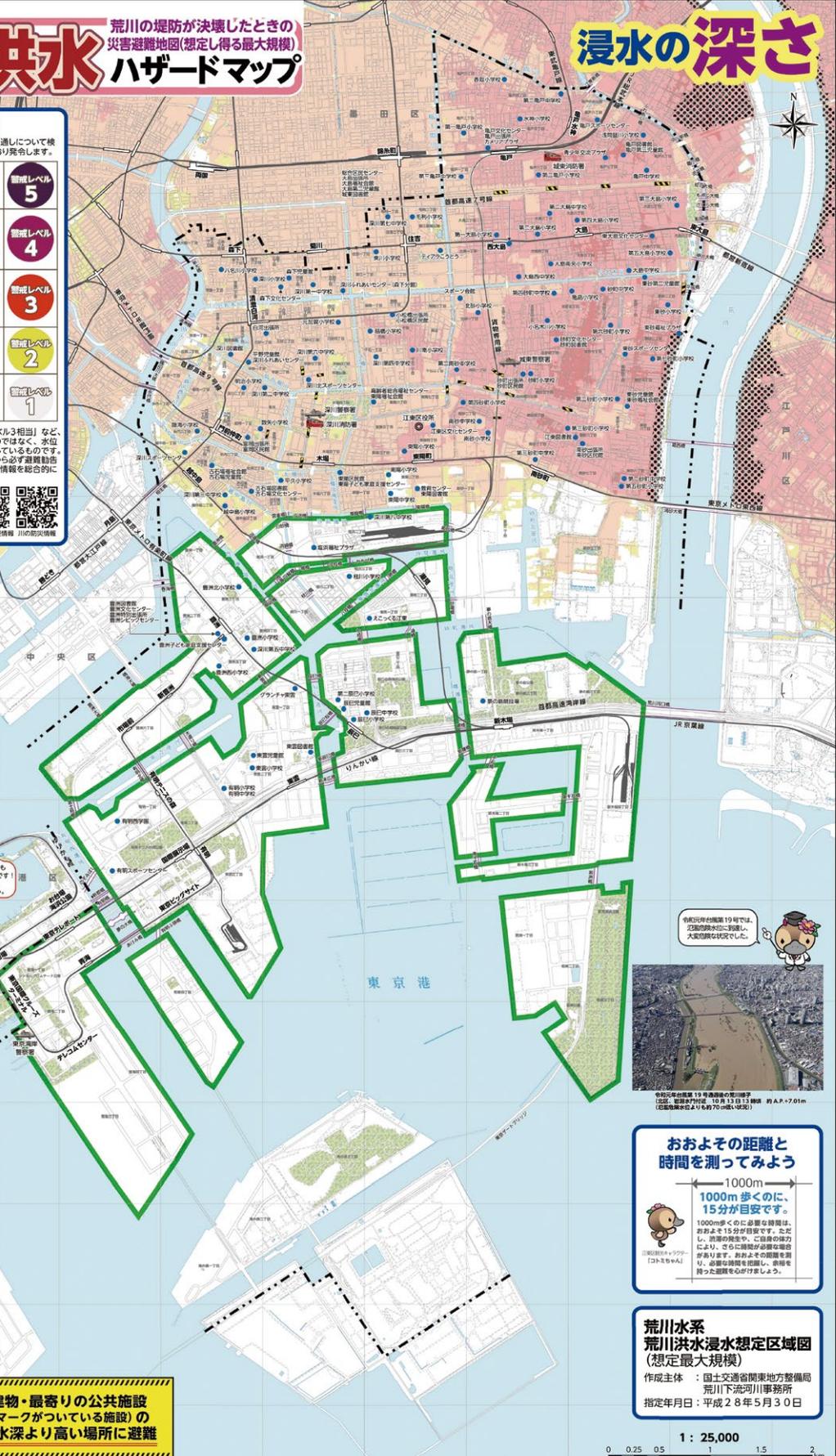
凡例(洪水)

- 避難先
 - 主な公共施設
 - 避難地区は、・地盤が高い
 - 避難地区は、・浸水しにくい区域
 - 避難地区は、・公園・広場がある
- 水害時、特に危険となる箇所
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域
 - 流速が大きく木造家屋が倒壊する恐れがある区域
 - アンダーパス
- アンダーパスとは、周辺より低く水が溜まりやすいため注意が必要な箇所

命を守る緊急手段

ご自身の建物・最寄りの公共施設(マップに●マークがついている施設)の想定される水深より高い場所に避難

重要避難



おおよその距離と時間を測ってみよう

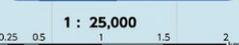
1000m 歩くのに、15分が目安です。

1000m歩くのに必要な時間は、およそ15分が目安です。ただし、道の長さや、ご自身の体力により、さらに時間が必要になる場合があります。おおよその距離を測り、必要な時間を把握し、余裕を持った避難をお願いします。

荒川水系 荒川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

作成主体：国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所

指定年月日：平成28年5月30日



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京縮尺2,500分の1地図図を利用して作成したものである。(承認番号)31都計生支第160号、(承認番号)31都計支文第216号

江東区洪水ハザードマップ
出典：江東区土木部河川公園課

